

私の博物誌

題字 石川進

第百十五回

「今年の桜」

花見の節をアツという間にすり抜けてこの数年来春を送るころ、妻と語るのは「今年も花見ができず残念だったね」というのが通例になってしまった。

この四月十四日(木)は朝から小雨が断続している中で、小さな穴のように体が空いたのを機に十余年も桜を見るための花見が叶わなかったのを思い出して二人で出かけたのはよかったが、時を逃がし雨も降っている中で花見ができる場所は限られている。

結果的に市営球場もある「運動公園」を目指して車を走らせ、咲き残った花が目立つ一株の木を見つけて車を止めた。

小雨の降る空を見上げ、晴天とは比較にならないほどの暗い中に咲き残る花は山桜の一株だった。「染井吉野」より少し色の濃い花は、葉もかなり出ていて、燕脂色の葉

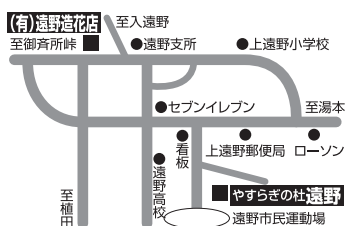
と葉柄は染井吉野とは異なる趣があり美しい。未だ六十代も半ばのころ、スタミナを気にすることなく運転ができたころのこと。富山市にある「水墨画美術館」を訪ねた折のことだった。日本海は目前にあるのが判り、間もなく九頭龍川も尽きるのも見えるのだが、兩岸の堤防に咲く染井吉野の花は流れ下る川の色に映えて言葉にならぬ美しさであった。

下流に向かって左側の堤防の下にある水墨画美術館は、建ってまだ新しく、環境は数ある美術館の中でもトップクラスの立地を示して実に美しい。この折は一刀刻り知られる「円空佛」の特別展だったの思い出す。

桜並木の盛り上がるような花々の波は続き、仔細に観察すると桜並木には病木は勿論のこと、枯れ枝も見えず。整然として盛り上がる花の波は不思議な感動を私たちに



故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。



■法事会館及び中ホール

やすらぎの杜 遠野

〒972-0161 いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1
TEL.0246-89-4777

与えてくれたのをはつきりと思い出し、新たな感慨を再び甦らしてくれる。折に触れてはそのことを思い出し、富山の市民の方々の心の在り様を見せたいことがとてもありがたく思えるのだ。

山桜の花を雨滴の中で見ながら不思議な色の桜を何度か見たことを思い出す。最初は大坂の造幣局の敷地の中で昭和四十三年の春、もう一つはその何年か後のことだが判然とはせず、会津の藩校日新館か武家屋敷かのどちらかだった。その桜は緑色の花を点じ、一瞬、目を疑った記憶がある。人間の既成概念はかなり強靱に脳にこびり着くものらしく、桜色の範囲を出ない色の花だけを数十年も見続けた古い脳が、なるほ

どと合点するのには少し間があったことも同時に思い出す。ずっと時間が過ぎたころに「鬱金」という種であることが分かって嬉しく思えた。

一九九四年の春も終わりに近い頃、父から木の苗が手渡された。前年の秋、娘に男児が生まれていて、それを祝って瀧桜の子を買ってきたので植えておけ、との話だった。家に持ち帰り、西側の山の斜面を三メートル程登ったところに穴を掘り、丁寧に植えて二十余年余りが過ぎた数年前の春、何気なく山の斜面を見上げると既に枝垂れていつの間にか若木に育った瀧桜の子は数輪の花を点じて揺れているのが見え、親のありがたさを身に染みて感じた。



二〇二二年四月半ば過ぎ、父の土産の瀧桜の苗が育ち私の太腿より太くなっている

カットは樹の上部にだけ花を点じた今年の姿だが、私の注意力不足で左手に昔からある櫛の大きな木の樹影が桜に十分な陽光を与えないせいである。昨秋の施肥を失念したことも合わせてまじかかったと思う。「今年も花見ができなかつたね」は、妻が撮影してプリントをしてくれたこの写真を見て、取り消すことにした。



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員

虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設



医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 史香

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531